

天然の風味・外観が魅力のエノキタケ新品種を栽培してみませんか？

野生型エノキタケ新品種「雪黄金（ゆきこがね）」の開発

課題名(研究期間)

野生型エノキタケの新品種開発（2019～2021年度）

従来品種「えぞ雪の下」

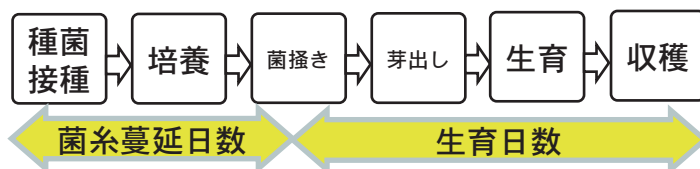


・天然の外観・風味でリピーターに人気「うま味や歯ごたえが良い」
・林産試で開発され、道内で25年以上生産・流通しているが未登録品種

新品種を開発し「雪黄金」として品種登録（第30601号）



野生型エノキタケの栽培工程



従来品種：21日

従来品種：21日

↓
新品種：19日

↓
新品種：19日

従来品種と同様の栽培方法で、栽培日数の短縮が可能
菌掻きすることにより、従来品種よりも芽出しが揃いやすい



シート巻き（左）や袋を使った菌床栽培（右）も可能です。



成果の概要	■「雪黄金」は、味や食感を維持しながら栽培日数が1割短縮できるので、従来品種より生産効率が向上しました。 ■生産者での菌掻き（＝発生制御）が可能になり、きのこの発生を揃えやすい品種です。 ■「雪黄金」は、カラマツおが粉のほか、トドマツおが粉やコーンコブを添加した培地を用いても、従来品種に比べて増収が期待できます。
成果の活用	■きのこ生産者において、試験栽培を実施しています。
成果の公表	■宜寿次盛生・米山彰造・齋藤沙弥佳・東智則・檜山亮・津田真由美(2022年) 野生型エノキタケ新品種の開発（第1報）．林産試験場報.549 ■宜寿次盛生・米山彰造・吉野(齋藤)沙弥佳・東智則・檜山亮・津田真由美(2023年) 野生型エノキタケ新品種の開発（第2報）．林産試験場報.550
研究担当	林産試験場 利用部微生物グループ、食品加工研究センター
連携機関	
特記事項	■品種登録第30601号（令和6年11月27日）、「雪黄金」は道総研との利用許諾手続をすることで生産・販売が可能です。詳しくはご相談ください。
備考	